

# 介護予防・短期入所生活介護 ショートステイにしきの園 運営規程

## 第1章 事業の目的と運営の方針

### 第1条（事業の目的）

社会福祉法人玉風会が開設するショートステイにしきの園（以下、「事業者」という。）が行う指定短期入所生活介護・指定介護予防短期入所生活介護（以下「事業」という。）の適正な運営を確保するために、人員及び管理運営に関する事項を定め、事業所の従業者等（以下、「従業者」という。）が、要介護・要支援状態と認定された利用者（以下、「利用者」という。）に対し、適正な短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護（以下、「介護サービス」という。）を提供することを目的とします。

### 第2条（運営の方針）

事業者は、利用者が介護保険法の主旨に従って、可能な限りその居宅において、その有する能力に応じ、自立した日常生活を営むことができるよう、介護計画に基づいて入浴・排泄・食事等の介護、その他の必要な日常生活上の世話及び機能訓練を行うことにより、利用者の心身の機能の維持並びに、利用者家族の身体的並びに精神的負担の軽減を図るものとします。

2 事業の実施に当たっては、地域や家庭との結びつきを重視した運営を行い、関係市町村、地域の保健・医療・福祉サービスとの密接な連携を図り、総合的なサービスの提供に努めるものとします。

### 第3条（事業所の名称及び所在地等）

事業を行う事業所の名称及び所在地は、次のとおりとします。

- 一 名称 ショートステイにしきの園
- 二 所在地 群馬県佐波郡玉村町大字飯倉59番地

## 第2章 従業者の職種、員数及び職務の内容

### 第4条（従業者の職種・員数及び職務内容）

事業所に勤務する従業者の職種、員数及び職務内容は次のとおりとします。

（職員配置については、併設の特別養護老人ホームと兼務となります。）

- 一 管理者 1名（常勤）  
事業所の従事者の管理、業務の実施状況の把握その他の管理を一元的に行います。
- 二 医師 1名以上（非常勤）  
利用者の健康管理及び療養上の指導を行います。
- 三 生活相談員 1名以上（常勤1名）  
利用者の生活相談、苦情への対応、処遇の企画や実施等を行います。
- 四 介護職員 26名以上  
利用者の居宅サービス計画及び短期入所生活介護計画に基づき、利用者の日常生活全般に

わたる介護業務を行います。

五 看護師又は准看護師 3名以上

検温、血圧測定等を行うほか、利用者の居宅サービス計画及び短期入所生活介護計画・予防介護短期入所生活介護計画（以下、「介護計画」という。）に基づく看護を行います。

六 機能訓練指導員 1名以上

日常生活を営むのに必要な機能を改善し、又はその減退を防止するための訓練を行います。

七 介護支援専門員 1名以上

介護計画作成等を行います。

八 管理栄養士 1名以上

食事の献立作成、栄養計算利用者に対する栄養指導を行います。

九 調理員その他の従業者

必要な事務等を行います。

### 第3章 利用定員と送迎

#### 第5条（利用者の定員）

事業所の利用定員数は、1日15名とします。ただし、災害その他やむを得ない事業がある場合は、この限りではありません。

#### 第6条（通常の事業実施地域）

通常の事業実施地域は、佐波郡玉村町全域、高崎市新町（旧多野郡新町）、伊勢崎市（旧佐波郡東村、境町、赤堀町を除く）、とします。

### 第4章 設備及び備品等

#### 第7条（居室）

利用者の居室には、ベッド・枕元灯・ロッカー・ナースコール等を備品として備えています。

#### 第8条（静養室）

事業者は、利用者が居室で静養することが一時的に困難な状態の時に使用できる静養室を、介護職員又は看護職員室に隣接し設けています。

#### 第9条（食堂）

事業者は、利用者が使用できる十分な広さを備えた食堂を設け、利用者が使用できるテーブル・いす・箸や食器類などの備品類を備えています。

#### 第10条（浴室）

事業者は、利用者が使用しやすいよう一般浴槽の他に要介助者のための特殊浴槽を設けています。

#### 第11条（洗面所及び便所）

事業者は、必要に応じて各所に洗面所や便所を設けています。

#### 第12条（機能訓練スペース）

事業者は、利用者が使用できる十分な広さを持つ機能訓練スペースを設け、目的に応じた機能訓練器具等を備えています。

#### 第13条（介護職員室）

事業者は、居室に隣接して介護職員室を設け、机・いすや書類及び保管庫等必要な備品を備えます。

#### 第14条（その他の設備）

事業者は、その他設備として、洗濯室・汚物処理室・介護材料室・調理室・面談室・事務室等を設けます。また、消火設備その他の災害に際して必要な設備並びにサービスの提供に必要なその他の設備及び備品を備えます。

### 第5章 同意と契約

#### 第15条（内容及び手続きの説明並びに同意及び契約）

事業者は、サービス提供の開始に際して、サービス利用申込者又はその家族に対して、運営規程の概要、従業者の勤務体制、その他サービスの選択に資する重要事項を記した文書を交付し説明を行い、同意を得た上で契約を締結します。

#### 第16条（受給資格等の確認）

事業者は、サービスの利用を希望する者が提示する被保険者証により、被保険者資格・要介護(要支援)認定の有無及び要介護(要支援)認定の有効期間を確認することができます。

### 第6章 サービスの提供

#### 第17条（介護計画の作成）

事業所の管理者は、介護支援専門員に、介護計画の作成に関する業務を担当させるものとします。

#### 第18条（介護サービスの内容）

事業者は、介護計画に基づいて、必要とされる日常生活上の介護、食事提供、機能訓練、健康管理、レクリエーション、相談及び援助等を実施します。

また、その他のサービスの提供として、常に利用者の家族との連携を図るよう努めます。

#### 第19条（サービスの取り扱い方針）

事業者は、可能なかぎりその居宅において、要介護、要支援状態の維持もしくは改善を図り、また要介

護状態となることを予防し、自立した日常生活を営むことができるよう支援を行うことで、利用者の心身の機能の維持、回復を図り、もって利用者の生活機能の維持、又は向上を目指し、利用者の意欲を喚起しながら支援します。

- 2 サービスを提供するに当たっては、利用者の心身の状況等について把握するとともに、サービス内容の確認を行います。
- 3 事業者は、サービスを提供するに当たって、その介護計画に基づき、漫然かつ画一的なものとならないよう、配慮して行います。
- 4 事業者は、サービスを提供するに当たっては懇切丁寧を旨とし、利用者又はその家族に対し、処遇上必要な事項について理解しやすいように説明を行います。
- 5 事業者は、サービスを提供するに当たって、利用者又は他の利用者等の生命又は身体を保護するために緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等は行いません。また、身体拘束等を行う場合には、その態様及び時間、その際の利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由を記録します。
- 6 事業者は、自らその提供するサービスの質の評価を行い、介護計画及び提供サービス内容の評価を常に見直すことで改善を図ることとします。

#### 第20条（利用料及びその他の費用）

介護サービスを提供した場合の利用料の額は、厚生労働大臣が定める基準によるものとし、当該サービスが法定代理受領サービスであるときは、介護保険法による介護報酬の告示上の額とします。

##### 【詳細別紙にて】

- 2 事業者は、法定代理受領サービスに該当するサービスを提供した場合には、その利用者から利用料の一部として、当該介護サービスに係る居宅介護サービス費用基準額から事業者を支払われる居宅介護サービス費の額を控除して得た額の支払いを受けるものとします。
- 3 事業者は、法定代理受領サービスに該当しないサービスを提供した場合には、利用者から支払いを受ける利用料の額と、厚生労働大臣が定める基準により算定した費用の額との間に、不合理な差額が生じないようにします。
- 4 事業者は、前2項のほか、次に掲げる費用を徴収します。
  - 一 通常の事業の実施地域以外の地域に居宅する利用者に対し行う送迎に要する費用
  - 二 食事の提供に要する費用（食材料費及び調理費用相当額）
  - 三 滞在に要する費用
  - 四 理美容代
  - 五 その他、介護サービスにおいて提供される便宜のうち、日常生活においても通常必要となるものに係る費用で、利用者が負担することが適当と認められるもの
- 5 介護サービスの提供に当たって、利用者又はその家族に対して、サービスの内容及び費用について説明し、利用者又はその家族の同意を得ます。

#### 第21条（利用料の変更等）

事業者は、介護保険法関係法令の改正等並びに経済状況の著しい変化その他やむを得ない事由がある場合は、前条に規定する利用料を変更することができます。

- 2 事業者は、前項の利用料を変更する場合は、あらかじめ、利用者又はその家族に対し、当該サービスの内容及び費用を記した文書により説明し、同意を得るものとします。

## 第7章 留意事項

### 第22条（食事）

介護サービス利用中の食事は、特段の事情がない限り、事業者が提供する食事を摂取していただきます。

### 第23条（喫煙）

喫煙は、事業所外敷地内の所定の場所に限り、なお所定の場所以外は禁煙にご協力をいただきます。

### 第24条（飲酒）

飲酒は、事業所内の所定の場所及び時間に限り、それ以外の場所及び時間は居室内を含み筋腫にご協力をいただきます。

### 第25条（衛生保持）

利用者は、生活環境の保全のため、事業所内の清潔、整頓、その他環境衛生保持にご協力いただきます。

### 第26条（禁止行為）

利用者は、事業所で次の行為をしてはいけません。

- 一 宗教や信条の相違などで他人を攻撃し、又は自己の利益のために他人の自由を侵すこと。
- 二 けんか、口論、泥酔などで他の利用者等に迷惑を及ぼすこと。
- 三 事業所の秩序、風紀を乱し、安全衛生を害すること。
- 四 指定した場所以外で火気を用いること。
- 五 故意に事業所もしくは物品に損害を与え、又はこれを持ち出すこと。

### 第27条（利用者に関する市町村への通知）

利用者が次の各号のいずれかに該当する場合には、遅滞なく、意見を付してその旨を市町村に通知します。

- 一 正当な理由なしにサービス利用に関する指示に従わないことにより、要介護・要支援状態の程度を増進させたと認められるとき。
- 二 偽りその他不正行為によって保険給付を受け、又は受けようとしているとき。

## 第8章 従業者の服務規程と質の確保

### 第28条（従業者の服務規程）

従業者は、介護保険関係法令及び諸規則、個人情報保護法を遵守し、業務上の指示命令に従い、自己の業務に専念します。服務に当たっては、常に以下の事項に留意します。

- 一 利用者に対しては、人権を尊重し、自立支援を旨とし、責任を持って接遇する。
- 二 常に健康に留意し、明朗な態度を心がける。
- 三 お互いに協力し合い、能率の向上に努力するよう心がける。

## 第29条（衛生管理及び感染症対策）

事業者は、利用者と施設の衛生管理に努めるとともに、感染症が発生し、又はまん延しないように、次の各号に掲げる措置を講じます。

- 一 事業者は、感染症の予防及びまん延防止のための対策を検討する委員会（テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。）を設置し、定期的に（おおむね6か月に1回以上）開催するとともに、その結果について、従業者に周知徹底を図る。
- 二 事業所における感染症の予防及びまん延の防止のための指針を整備する。
- 三 事業所は、従業者に対し、感染症の予防及びまん延の防止のための研修及び訓練を定期的に（年1回以上）実施する。

## 第30条（虐待の防止）

事業者は、虐待の発生又はその再発を防止するため次の措置を講ずるものとします。

- 一 虐待の防止のための対策を検討する虐待防止検討委員会（テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。）を設置し、定期的に開催するとともに、その結果について、従業者に周知徹底を図る。
- 二 虐待の防止のための指針を整備する。
- 三 従業者に対し、虐待の防止のための研修を定期的に（年1回以上）実施する。
- 四 上記の措置を適切に実施するための担当任者を置く。

## 第31条（従業者の質の確保）

事業者は、従業者の資質向上を図るため、その研修の機会を確保します。

- 2 事業者は、利用者に対する介護に直接携わる従業者（看護師、准看護師、介護福祉士、介護支援専門員、介護保険法第8条第2項に規定する政令で定める者等の資格を有する者その他これに類する者を除く。）に対し、認知症介護に係る基礎的な研修を受講させるために必要な措置を講じるものとします。

## 第32条（個人情報保護）

事業者及び従業者は、業務上知り得た利用者又はその家族の秘密を保持することを厳守します。

- 2 事業者は、従業者が退職した後も、正当な理由なく、業務上知り得た利用者又はその家族の秘密を漏らすことのないよう、必要な措置を講じます。
- 3 事業者は、関係規格、医療機関等に対して、利用者に関する情報を提供する場合には、あらかじめ文書により利用者の同意を得ることとします。
- 4 事業者は、個人情報保護法に則し、個人情報を使用する場合利用者及びその家族の個人情報の利用目的を公表します。
- 5 事業者は、個人情報の保護に係る規程を公表します。

## 第9章 緊急時、非常時の対応

### 第33条（緊急時の対応）

従業者は、利用者の病状の急変が生じた場合や、その他緊急の事態が生じた場合には、速やかに主治医

又はあらかじめ定められた協力医療機関及び各関係機関に連絡する等の必要な措置を講じ、管理者に報告する義務を負います。

#### 第34条（事故発生時の対応）

事業者は、利用者に対するサービスの提供により事故が発生した場合には、応急措置、医療機関への搬送等の措置を講じ、速やかに市町村及び利用者の家族等に連絡するとともに、顛末記録、再発防止対策に努めその対応について協議します。

- 2 事業者は、利用者に対するサービスの提供により賠償すべき事故が発生した場合には、損害賠償を速やかにすることとします。ただし、事業者及び従業者の責に帰すべからざる事由による場合はこの限りではありません。

#### 第35条（非常災害対策）

事業者は、非常災害時においては、利用者の安全第一を優先し、迅速適切な対応に努めます。

- 2 非常災害その他緊急の事態に備えて、防災及び避難に関する計画を作成し、災害時における関係機関への通報及び連携体制を整備し、利用者及び従業者に対し周知徹底を図るため、年2回以上避難、その他必要な訓練等を実施します。
- 3 事業所は、前項に規定する訓練の実施に当たって、地域住民、消防関係者の参加が得られるよう連携に努めます。

#### 第36条（業務継続計画の策定等）

事業所は、感染症や非常災害の発生時において、利用者に対する指定通所介護の提供を継続的に実施するため及び非常時の体制で早期の業務再開を図るための計画（以下「業務継続計画」という。）を策定し、当該業務継続計画に従い必要な措置を講じます。

- 2 事業所は、従業者に対し、業務継続計画について周知するとともに、必要な研修及び訓練を定期的に（年1回以上）実施します。
- 3 事業所は、定期的に業務継続計画の見直しを行い、必要に応じて業務継続計画の変更を行います。

## 第10章 その他

#### 第37条（地域との連携）

事業所の運営に当たっては、地域住民又は住民の活動等との連携や協力を行うなど、地域との交流に努めます。

#### 第38条（勤務体制等）

事業者は、利用者に対して適切なサービスを提供できるよう、従業者の体制を定めます。

- 2 利用者に対するサービスの提供は、事業所の従業者によって行います。ただし、利用者の処遇に直接影響を及ぼさない業務については、この限りではありません。

#### 第39条（記録の整備）

事業者は、従業者、設備、備品及び会計に関する諸記録を整備しておくものとします。

- 2 事業者は、利用者に対するサービスの提供に係る諸記録を整備し、その完結の日から2年間保存するものとします。

#### 第40条（苦情処理）

事業者は、利用者からの苦情に迅速にかつ適切に対応するため、苦情受付窓口の設置や第三者委員を選任するなど必要な措置を講じます。

- 2 事業者は、提供するサービスに関して、市町村からの文書の提出・提示の求め、又は市町村職員からの質問・照会に応じ、利用者からの苦情に関する調査に協力します。市町村からの指導又は助言を得た場合は、それに従い、必要な改善を行い報告します。
- 3 事業者は、サービスに関する利用者からの苦情に関して、群馬県国民健康保険団体連合会の調査に協力するとともに、群馬県国民健康保険団体連合会からの指導又は助言を得た場合は、それに従い、必要な改善を行い報告します。

#### 第41条（職場におけるハラスメント）

事業者は、適切な社会福祉事業の提供を確保する観点から、職場において行われる性的な言動又は優越的な関係を背景とした言動であって業務上必要かつ相当な範囲を超えたものにより従業者の就業環境が害されることを防止するための方針の明確化等の必要な措置を講じるものとする。

#### 第42条（掲示）

事業所内の見やすい場所に、運営規程の概要、従業者の勤務体制、協力病院、利用料その他のサービスの選択に資する重要事項を掲示します。

#### 第43条（協力医療機関等）

事業者は、入院等の治療を必要とする利用者のために、あらかじめ協力医療機関を定めておきます。

- 2 事業者は、治療を必要とする利用者のために、あらかじめ協力歯科医療機関を定めておきます。

#### 第44条（その他）

この規程に定める事項のほか、運営に関する重要事項は事業者と事業所の管理者との協議に基づいて定めるものとします。

附則 この規程は、令和4年4月1日から施行します。